

# アカデミアから企業へ

廣瀬 理沙

国内製薬企業 メディカルサイエンスリエゾン

<メディカルサイエンスリエゾン> <研究職を活かして>

ポスドクとして約8年医学系の研究に携わった後、製薬企業のメディカルアフェアーズ(MA)部に転職しました。メディカルサイエンスリエゾン(MSL)として働いています。医学専門家と最新の科学的知見を用いてディスカッションすることや、エビデンスの構築がMA部の主なミッションです。MA部に所属するMSLは社外医科学専門家と医学的・科学的な交流を持つ役割担う職種で、医療従事者の先生方と面談しディスカッションすることが主な業務の1つです。

担当している疾患領域で患者さんのために本当に必要なことは何か、医療従事者の方が必要としている情報は何かに気付けるよう、科学的根拠をもとに先生方とお話すること、先生との会話の中新たな気づきを得られるよう心がけています。それが患者さんに最適な医療を届けることにつながればと思い仕事をしています。専門知識とコミュニケーション力が求められる仕事です。ポスドク時代にラボで先生方とディスカッションした経験を活かせる仕事だと思います。

PhDを取得して2年たった頃、アメリカの研究所で働ける機会を頂きました。出産5か月後に渡米し、家族と共にアメリカで2年3か月過ごしました。子供を保育園に預け、日々あつと言う間に過ぎていきましたが、仕事の面でも私生活の面でもとても貴重な経験ができました。家庭生活を大事にしながらも効率よく働き結果を出していくアメリカの研究者たちの働き方をみて学ぶことが多くあり、様々な国の人と働くことはいろんな考え方を知る機会となりました。

いろいろな経験をし、いろいろな人と出会うことで、新たにチャレンジする機会ができると思います。研究に没頭していると研究室にこもりがちになると思いますが、ぜひプライベートの時間も充実させて下さい。そして、自分の強みや弱みといった自己分析は、自分の力を最大限発揮できる環境に身を置くために必要なことだと思います。論文などの業績も大事ですが、どう働くことが自分にとって一番ハッピーか考えることも大事だと思います。

<海外でポスドクを経験>

<進路選択に対してのメッセージ>

<プロフィール>

お茶の水女子大学附属高校 → 早稲田大学人間科学部人間基礎科学科 → 早稲田大学大学院人間科学研究科分子細胞生物学専攻 → 東京大学大学院医学系研究科 博士課程修了(医学博士) → 東京大学大学院医学系研究科 DC2 → 国立精神・神経医療研究センター ポスドク → 第一子出産 → 米国 City of Hope ポスドク → 東京大学医科学研究所 ポスドク → 現職

